

「第2回 モノづくり実践プロジェクト」企画書

1. プロジェクトチーム名

風力発電を用いた循環型社会に向けたオブジェ

2. メンバー名 [氏名(所属・学年)]
代表者は番号に○を付すこと。*代表者が4年生あるいはM2の場合は応募不可。

① (製品デザイン) ・2年) 2 (製品デザイン) ・2年)

3 () ・年) 4 () ・年)

5 () ・年) 6 () ・年)

7 () ・年) 8 () ・年)

3. 代表者連絡先 (本プロジェクトに関連する連絡にのみ使用します。)

携帯電話 (090) -

E-mail(PC) (@goc.ne.jp

E-mail(携帯) (@docomo.ne.jp

4. 協力教員名(所属) 氏名 村中 稔 (所属 製品デザイン)

5. コンセプト *第2回「テーマ」に関連付けて (400字以内)

これからの循環型社会においては、個々の小さなエコの積み重ねが、非常に重要です。しかし、多くの方は実感のなさや、面倒くささに、小さなエコを怠りがちです。そこで私たちは金沢から発信する新しい自然との調和のあり方をテーマに、「L」が自然と人をエコに導くプロダクトを目指しました。小さなエコを考えたとき、私たちが目に付いたのは「窓を開けること」です。現在多くは空調設備に頼りすぎ、実際には外気温の方が快適だったことも少なくありません。窓を開けないことは、健康面でもエコの面でもよくありません。窓を自然と開けて、結果それがエコと健康にプラスになるようなプロダクトがあて欲しいという願いからこのプロダクトは生まれました。

6. 製作費の概算内訳 (材料費・機器費・技術支援センター使用料など)

物	品	名	個数	単価	金額
	材料費				100,000
					100,000
合 計					(補助額の上限は15万円まで)

7. 工程計画

	7月	8月	9月	10月
作業内容	ラフモデル製作	中旬		
	内部構造研究		中旬	
	最終モデル・プレゼン準備			中旬

※ 参考資料等があれば、本企画書に添付してください。

「第2回 モノづくり実践プロジェクト」 企画書

1. プロジェクトチーム名				
「乗客の最適化」によるバスの利用促進のためのソフトウェアの開発				
2. メンバー名 [氏名(所属・学年)]				
代表者は番号に○を付すこと。*代表者が4年生あるいはM2の場合は応募不可。				
①	()	-2年	2	()
3	()	・ 年	4	()
5	()	・ 年	6	()
7	()	・ 年	8	()
3. 代表者連絡先 (本プロジェクトに関連する連絡にのみ使用します。)				
携帯電話	(090)		-	
E-mail(PC)	()@hotmail.com			
E-mail(携帯)	()@ezweb.ne.jp			
4. 協力教員名(所属) 氏名: 秋田 純一 (所属: 電子情報学類)				
5. コンセプト *第2回「テーマ」に関連付けて (400字以内)				
<p>二酸化炭素の多大な排出に伴う地球温暖化問題は、循環型社会をめざす「安全・安心で豊かな社会環境」の創造を目指すにあたり、乗り越えるべき大きな壁であるといえる。</p> <p>そこで私たちは、環境負荷の大きい自家用車の代替として、金沢市内を縦横に走る路線バスを利用することを提案したい。</p> <p>しかし、バスは好きな時刻に乗ることができるわけではなく、バスを利用する上での不便さの1つであるといえよう。</p> <p>そこで、時刻表を効率よく利用できるようにするソフトウェアを開発し、「乗客を最適化」することにより、バスの効率的な利用を推進する。</p> <p>具体的には、時計と連動し、乗る候補のバス停を入力することで、バスが来るまでの時間を、時刻表及び実際の運行状況を元に表示する。これにより、バスが来るまでの時間を効率よく使うことができる。</p> <p>美大生の方には、既存のソフトウェアのデザインにとらわれない、斬新で使いやすい画面デザインを期待している。</p>				
6. 製作費の概算内訳 (材料費・機器費・技術支援センター使用料など)				
物 品 名		個 数	単 価	金 額
17インチ液晶タッチパネル		1	59800	59800
パソコン EPSON Endeavor NP11-V		1	28375	28735
Adobe Illustrator CS4 Windows版(アカデミック)		1	29526	29529
合 計				(補助額の上限は15万円まで)
				118064
7. 工程計画		7月	8月	9月
作業内容		仕様決定		
			データ準備、プログラミング	
			画面デザイン	
				評価

※ 参考資料等があれば、本企画書に添付してください。

「第2回 モノづくり実践プロジェクト」 企画書

1. プロジェクトチーム名 DENTO-DENTO			
～LEDと伝統工芸を用いた金沢における新しい電灯のかたち～			
2. メンバー名 [氏名(所属・学年)] 代表者は番号に○を付すこと。 *代表者が、卒論または修論に着手している4年生またはM2の場合は応募不可。			
1:	[REDACTED]	金沢美術工芸大学 製品デザイン専攻	・ 2 年
2:	[REDACTED]	金沢美術工芸大学 製品デザイン専攻	・ 2 年
3:	[REDACTED]	金沢美術工芸大学 製品デザイン専攻	・ 2 年
4:			・ 年
5:			・ 年
6:			・ 年
7:			・ 年
3. 代表者連絡先 (本プロジェクトに関連する連絡にのみ使用します。)			
携帯電話	(080) [REDACTED] - [REDACTED]		
E-mail(PC)	[REDACTED]		
E-mail(携帯)	[REDACTED]@ezweb.ne.jp		
4. 協力教員名	氏名:	所属:	
5. コンセプト	*第2回「テーマ」に関連付けて (400字以内)		
<p>私たちが住む地域には数々の伝統工芸が存在します。それは、江戸時代においては最先端の技術を有し、発展の象徴でもありました。しかし、そんな伝統工芸も現在では、押し寄せる近代化の波、技法の衰退、用途の希薄化などの多くの問題をかかえています。この問題に対し私たちは、伝統工芸を現代の技術と融合させ、今の時代に見合った新しいかたちとして発展させることができなかと考えました。そこで現代におけるエコロジーという観点から環境に配慮したLED技術と組み合わせることにより、循環型社会に適した新しい照明器具の形を提案します。いつも身近に存在する証明器具から伝統工芸を取り入れることで伝統工芸が持つすばらしさを感じてもらうことが出来ます。具体例として街灯などの公共物に用いることで、国際都市金沢において伝統工芸を広めるための格好の製品となり、家庭における照明として用いることにより伝統工芸と触れ合う切り口となります。</p>			
6. 製作費の概算内訳 (材料費・機器費・技術支援センター使用料など)			
	物 品 名	個 数	単 価
	LEDライト・回路	10	1000
	支柱用の金属棒	10	5000
	工芸品の材料	-	-
	取材費	-	-
	合 計	(補助額の上限は15万円まで)	
7. 工程計画		7月	8月
作業内容	伝統工芸についての調査・取材	下旬	
	デザイン検討		上旬
	LED検討	○	○
	スケールモデル製作・検討		○
	最終モデル製作		

※ 参考資料等があれば、本企画書に添付してください。

「第2回 モノづくり実践プロジェクト」 企画書

1. プロジェクトチーム名			
モーションキャプチャによる金沢の伝統技芸の動作解析とその技術伝承			
2. メンバー名 [氏名(所属・学年)] 代表者は番号に○を付すこと。 *代表者が、卒論または修論に着手している4年生またはM2の場合は応募不可。			
1:	[REDACTED] 大学院自然科学研究科	・	1 年
2:	[REDACTED] 工学部機能機械工学科	・	4 年
3:	[REDACTED] 大学院自然科学研究科	・	1 年
4:		・	年
5:		・	年
6:		・	年
7:		・	年
3. 代表者連絡先 (本プロジェクトに関連する連絡にのみ使用します。)			
携帯電話	(090) [REDACTED] - [REDACTED]		
E-mail(PC)	([REDACTED]@stu.kanazawa-u.ac.jp		
E-mail(携帯)	([REDACTED]@docomo.ne.jp		
4. 協力教員名	氏名: 岩井 智昭	所属:	理工研究域機械工学系
5. コンセプト	*第2回「テーマ」に関連付けて (400字以内)		
<p>伝統芸能である能や踊りなど各種技芸は、師匠から弟子へとその技術が伝承されている。そのため、一般市民にとっては敷居が高く、気軽にその技能に触れることが難しいと思われる。近年、人の動きを3次元的解析可能なモーションキャプチャシステムが発達している。このシステムでは、正確な動作解析のためにウエットスーツ状の特殊服を着用し、体に多数のマーカーを取り付ける必要がある。技芸の伝承では身体の動きのみならず衣装の優雅な動きも大切であると思われる。通常のビデオでは外見の動作は記録できるが、実際の身体各部位の細かな動きを知ることはできない。一方、動作解析用スーツではその優雅さは表現できない。この両者を合わせ記録することで、未来への技術の保存と伝承が可能となる。</p> <p>そこで本テーマでは、伝統的な衣装での動作解析が可能なシステムの開発を目指すとともに、開発したシステムを用い各種技芸の技術伝承ライブラリ作成を目的とする。</p>			
6. 製作費の概算内訳 (材料費・機器費・技術支援センター使用料など)			
	物 品 名	個 数	単 価
	高輝度赤外線LED,	80	520
	コイン電池及びフォルダー	40	550
	基板	5	880
	三脚	6	13,000
	合 計	(補助額の上限は15万円まで)	
		146,000	
7. 工程計画		8月	9月
作業内容	プロジェクト行程計画	立案・作成	10月
	小型赤外線LEDマーカー作成	設計・製作	動作確認
	モーションキャプチャシステムとの連携	設計	動作確認
	動作解析およびライブラリ作成		計画立案
	プロジェクト総括		解析・作成
			総括

「第2回 モノづくり実践プロジェクト」 企画書

1. プロジェクトチーム名				
ルームシェア in 町家				
2. メンバー名〔氏名(所属・学年)〕 代表者は番号に○を付すこと。 *代表者が、卒論または修論に着手している4年生またはM2の場合は応募不可。				
1:	[REDACTED]	工学部 土木建設工学科	・ 3 年	
②:	[REDACTED]	工学部 土木建設工学科	・ 3 年	
3:			・ 年	
4:			・ 年	
5:			・ 年	
3. 代表者連絡先 (本プロジェクトに関連する連絡にのみ使用します。)				
携帯電話	(090)-[REDACTED]			
E-mail(PC)	([REDACTED]@stu.kanazawa-u.ac.jp			
E-mail(携帯)	([REDACTED]@ezweb.ne.jp			
4. 協力教員名	氏名: 小林 史彦	所属:	環境デザイン学類	
5. コンセプト	*第2回「テーマ」に関連付けて (400字以内)			
<p>金沢の街なかには、町家（戦前に建てられた歴史的家屋）が数多く建っている。町家には金沢の歴史や文化が蓄積され、人々の生活の知恵や工夫が息づき、また、人々の暮らしの交流の場となっている。しかしながら、空き家になる町家が増え、近年急速に町家の取り壊しが進み、それに伴い金沢の歴史風土や地域のコミュニティが失われつつある。</p> <p>そこで、空き家となった町家を改修し、地域の核となる空間に新生させるプロジェクトを提案する。具体的には、学生の宿舎として町家を改修し、さらに地域住民の交流の場となるようなサロンを設ける。金沢大学が角間に移転する前、学生は街なかに暮らし、地域の一員としての役割を担ってきた。しかし現在、ワンルームマンションに住む学生がほとんどであり、地域と学生との関係は希薄である。町家に学生が暮らすことにより、学生がまちに戻り、町家が地域に開かれ、ひいては地域を活性化することができる。</p>				
6. 製作費の概算内訳 (材料費・機器費・技術支援センター使用料など)				
	物 品 名	個 数	単 価	
	調査用品 (カメラ, メジャー, 画板 等)	一式	60000円	
	図面, 模型制作用品 (CADソフト, 紙, 模型材料 等)	一式	70000円	
	公開展示用品 (パネル, 掃除用品 等)	一式	20000円	
合 計			150000円	
(補助額の上限は15万円まで)				
7. 工程計画		8月	9月	
作業内容	①町家・地域の歴史など下調べ	文献・現地調査		
	②図面づくり	完成目標		
	③模型づくり	制作開始	完成目標	
	④評価			町家巡遊にあわせた作品展示
	⑤プレゼン準備			レジュメなど作成

※ 参考資料等があれば、本企画書に添付してください。

「第2回 モノづくり実践プロジェクト」 企画書

1. プロジェクトチーム名				
材料 (けいし)				
2. メンバー名 [氏名(所属・学年)] 代表者は番号に○を付すこと。 *代表者が、卒論または修論に着手している4年生またはM2の場合は応募不可。				
1:	自然科学研究科 機能機械科学専攻 流体工学研究室	・M1	年	
2:	機能機械工学科 流体工学研究室	・B4	年	
3:	自然科学研究科 機能機械科学専攻 流体工学研究室	・M1	年	
4:		・	年	
5:		・	年	
6:		・	年	
7:		・	年	
3. 代表者連絡先 (本プロジェクトに関連する連絡にのみ使用します。)				
携帯電話	(090) - -			
E-mail(PC)	(@ yahoo.co.jp			
E-mail(携帯)	(@ docomo.ne.jp			
4. 協力教員名	氏名: 木綿 隆弘	所属:	流体工学研究室	
5. コンセプト	*第2回「テーマ」に関連付けて (400字以内)			
<p>近年 騒音水質の悪化は、電力の使用、自動車の使用と相俟って、この世に人が開発してきたもの使用を、不便にならない程度に制限する事が求められている。しかし、昔の人口にはそれほど言うた便利がとれなく、洗濯は川の流れる、風呂は風の流るを利用する等、自然の力と人の力を生活が及ぼさず、その為、昔の伝統技術を学ぶことは、工に対して大変有効であると思える。これは、現代人がいかに川の流れを上手にできないか、第一歩は、自然エネルギーを利用した発電を考える。日本人には「風流」の心を思い出さず、全く新しい形やデザインを取り入れ、一方で現代に至るまでに蓄積してきた技術による工学的に初期のものを製作すること、日本の文化独特の環境対策を行う。</p> <p>今日、世界の歴史を見れば、既に水に基いた、蒸気機関の発明による水車も、木材や竹材を用いた製作が、</p>				
6. 製作費の概算内訳 (材料費・機器費・技術支援センター使用料など)				
	物品名	個数	単価	金額
	木材・竹	5	4000	20,000
	軸皮	3	8,000	24,000
	技術支援センター使用料	50	490	24,500
	発電機	1	80,000	80,000
	合計	(補助額の上限は15万円まで)		148,500
7. 工程計画		8月	9月	10月
作業内容	現地見学	←→		
	設計	←→		
	デザイン	←→		
	製作		←→	
	テスト、改良			←→

※ 参考資料等があれば、本企画書に添付してください。